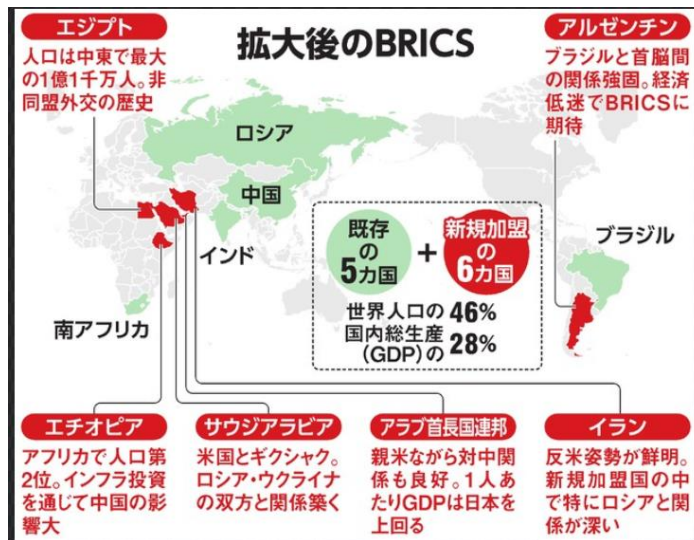


BRICS プラス (542号)

2023年 11月 石館

世界経済を巡っては、長きにわたって経済成長を主導してきた G7 (主要 7 カ国) に EU を加えた主要先進国の割合が 5 割を切るなど、存在感の低下が顕著になると共に、国際政治の場においてもその影響力が低下する傾向が強まっている。



こうしたなか、中国をはじめとする新興国を加えた枠組みの G20 (主要 20 カ国) は、幅広い国々が参加することで意見集約のすそ野が広がることが期待されたものの、現実には加盟国の多さゆえに“呉越同舟”感が露になる状況が続いている。

一方最近 BRICS の首脳会議が南アで開かれ、そこで BRICS の拡大が決まり、BRICS が更に脚光を浴びる様になった。

BRICS とはブラジル (B)、ロシア (R)、インド (I)、中国 (C)、南アフリカ (S) の新興 5 カ国の枠組みを指す言葉で、最初に登場したのは投資銀行レポート (2001年、当時は BRICS で南アを除いた 4 カ国とされている) である。2009年には初めて 4 カ国の首脳会議が開催され、2011年からは現在と同じ 5 カ国となった。

先進国の凋落や新興国の台頭が叫ばれる中で、欧米に対抗する国際秩序の機構やグローバル・サウスの囲い込みを狙って、中ロを中心に BRICS 加盟国の拡大に動いている。2023年の8月の首脳会議で、新たに上図のごとく 6 カ国の加盟を決定している。これらの国はエジプト、アルゼンチン、エチオピア、イラン、サウジアラビア、UAE である。

他方で、自由で開かれた国際秩序といった価値観を共有する G7 などとは異なり、加盟国は一枚岩から程遠いのが現状である。

特に全方位外交を展開するインドは反欧米の中ロとは一線を画している。モディ首相は今年5月には日本で開かれた G7 サミットに招待され、ウクライナのゼレンスキー大統領と共に民主主義陣営の結束に一役買った。また6月には米国に国賓として招かれた。



BRICS 首脳会議

モディ首相が議長を務める9月の G20 サミットを中ロ首脳が欠席したのは、こうした欧米に配慮したインドへの当てこすりではなかろうかとの見方もある。



今回の BRICS に新たに加わった6カ国のうち4カ国が中東諸国であることが目につく。なぜこれらの国が同時加盟したのであろうか。今回はこの中東諸国に焦点を当ててみる。

中国やインドなど BRICS 加盟国は化石燃料への依存度が高く、世界の石油生産の約3割を占めるペルシャ湾岸地域を取り込もうとするのは当然であろう。

一方サウジアラビア、イラン、UAE の思惑は何であろうか。まずいずれの国にも共通するのは国威発揚であろう。サウジアラビアの若いムハンマド皇太子の下で8月、ウクライナ和平会談を主催するなど、サウジの国際的地位向上に積極

的であり、BRICS 加盟もその一環と思われる。またイランは米国の経済制裁で経済が悪化して国民の不満が高まる中、BRICS 加盟により国民の士気高揚を期待しているのであろう。

これら3カ国にとり中国、インドは重要な石油輸出先であるため、大口顧客との関係強化ということもあるであろう。さらには、石油輸出機構（OPEC）と非OPEC 加盟の主要産油国で構成する“OPEC プラス”の主要メンバーであるロシアと油価安定のために関係強化を図る狙いもあるのであろう。



イラン大統領とサウジアラビア皇太子が電話 外交正常化後初めて ...



イラン大統領とサウジアラビア皇太子が電話 外交正常化後初めて ...

イラン大統領とサウジアラビア皇太子と国交正常化後初めて電話会談を行った。しかし今回勃発したハマスとイスラエルの戦闘は互いに支援する先が異なり両国関係を難しくするであろう。

さらに、中東諸国からエジプトが新たに加盟決まったほか、トルコやアルジェリアなども参加に関心を示していると言われ、中東諸国の BRICS への関心は高い。これは長年、欧米の干渉に苦しめられてきた中東には現在も反欧米感情が根強く残り、G7 が象徴する欧米中心の国際経済の枠組みへの対抗軸として、BRICS への期待感が強いことを示唆している。

サウジ及び UAE とイランの関係は今年3月、中国がイランとサウジの関係正常化を仲介し、ほぼ同じ時期に UAE もイランとの関係を改善したことから表面上は関係が修復されている。

イランは昨年までイエメンのフーシ派を使って繰り返しサウジと UAE を弾道ミサイルとドローンで攻撃していたので、両国のイランの覇権主義に対する警戒感は引き続き強いであろう。

先に述べたように BRICS 加盟国あるいは加盟しようとしている国は、加盟していれば何か良いことがあるといった、経済的な側面が強く、加盟国に共通する思想は見当たらない。

ハマスとイスラエル、それにヒズボラも巻き込んだ紛争の行方を見通すのはますます困難であろうが、BRICS の行方に大きく立ちはだかる障害になることは間違いない。アラブの盟主を自認するサウジはイスラエルとの国交樹立に際してパレスチナ問題を置き去りにするわけにはいかない。もし置き去りにしてしまえば、国内のみならずアラブ世界でサウジの威信は地に落ちる。

今回、BRICS 側はペルシャ湾地域の石油確保を狙ってこの 3 カ国の加盟を決めたが、域内の主要 3 カ国間の関係も危ういものがあり、ペルシャ湾情勢は引き続き予断を許さず、今の BRICS の枠組みは崩壊する可能性があるのではないか。